

○警察職員の任命、配置換、学校入校卒業等の際における申告のし方について
(昭和 34 年 3 月 23 日例規/34 神教発第 62 号)

各所属長あて 本部長

警察職員が上司に対して申告等を行う場合の姿勢、動作等については警察礼式第 18 条及び第 26 条に規定されているが、その表現方法(話し方)については何らの規定もなく、従来の慣習によつて実施しているところであるが、これは旧陸軍方式に準拠したもので、固苦しく形式的で不自然であるので、これを和やかな雰囲気の中に人情味のある感情の交流を図るため、今後次のような表現要領に改めて運営することとしたから、このことを全員に知らせるとともに、従来の習慣から、すみやかに脱皮されるよう指導されたい。

なお、注意しておきたいことは、表現要領をこのように改めたからといつて、警察の規律をゆるめるとか言語態度がだ弱になつてもよいというものでは決してなく、警察規律はあくまでも厳正を必要とすることはもちろんであるが、そのうちにも明るい温い人間関係を作るためにとつた処置であるから、この旨をあわせて教養し、運営に遺憾のないよう特に指導されたい。

記

上司に対する申告(言葉づかい)の要領

1 任命、配置換等の場合

- (1) 任命、配置換等の辞任の交付をうける場合、従来は辞令交付後、その場で直ちに「申告いたします。神奈川県巡查〇〇〇〇は、昭和〇年〇月〇日付をもつて〇〇警察署に配置換を命ぜられました。ここに謹んで申告いたします。」と、固苦しい、いわゆる「申告」を行つていたのであるが、辞令を交付される際には上司がその内容を読み上げるので、その直後に、しかも読んでくれた上司に、わかりきつたことを言い返すことにもなり、まことに不自然であるので、この場合は、

「〇〇署(課)に赴任の上は(〇〇に任命されました上は)専心勤務に励む覚悟でありますので、よろしく願いいたします。」

又は

「今後ともよろしく御指導を願います。」

というようにあいさつすることとする。

なお、辞令を交付された直後に、上司から今後の在り方、心構え等についての訓示や注意があつたときは、

「ただ今の御訓示(御注意)を身に体し、専心勤務に励む覚悟でありますので、よろしく願いいたします。」というようにあいさつする。

- (2) 本部長または部課署長(所属長)から辞令の交付をうけた後、他の上司にあいさつする場合は、

「このたび〇〇署(課)に配置換を命ぜられました。よろしくお願いいたします。」または「いろいろ御世話になりました。今後ともよろしくお願いいたします。」

というようにあいさつする。

- (3) 配置換の場合、新所属の上司に対しては、同じような要領で、

「〇〇巡査は、このたび当署(課)に配置換を命ぜられました。よろしくお願いいたします。」

というようにあいさつする。

旧所属の場合には、長い期間、共に勤務してきたのでわざわざ自分の氏名を申し上げなくもお互いにわかりきっているが、新しい所属に行った場合は、一応自分の氏名を申し上げるのが常識である。

2 学校の入校卒業の場合

- (1) 各種学校へ入学の場合は、やはり上司が辞令を交付する際に内容を読み上げるので同じことを言い返すことをやめ、

「入校の上は、しつかり勉強して参りますので、よろしくお願いいたします。」

というようにあいさつする。

また、所属長以外の上司(辞令を交付された上司以外の上司)に対しては、

「このたび〇〇学校に入校を命ぜられました。よろしくお願いいたします。」

または

「しつかり勉強して参りますから、よろしくお願いいたします。」

というようにあいさつする。

- (2) 卒業した場合は、

「〇〇学校入校中のところ、昨日卒業して参りました。」

「いろいろお世話になりました。」

というようにあいさつする。

この場合、卒業証書があれば、あいさつが終つてから上司に供覧する。

3 その他

- (1) 上記の外、いろいろな場合があると思うが、いずれも前記の要領で、自然に、かつ、簡明に行うようにする。

- (2) 2人以上で、そのうちの1人が代表で行う場合は、

「〇〇巡査外〇名は……」

を加えて、前記の要領で行う。

- (3) 上記にかかげたものは、あいさつの要領であつて、必ずこのとおりの言葉を使わなければいけないというものではなく、申告する人の個性や、そのときどきの事情によつては若干その言い方を変えてもさしつかえない。

4 備考

- (1) あいさつ(いわゆる申告)の際の姿勢、動作については警察礼式(国家公安委員会規則第13号)に定められているところによる。
- (2) 態度については、従来非常に緊張して固苦しく大声で行うという不自然さがあつたが今後は、でき得る限り自然に、かつ温和でお互が親しみを持てる雰囲気のうちにも端正な姿勢と、はつらつとした動作で行うこと。